

火災危険性を有するおそれのある物質等に関する調査検討会（令和5年度第2回）審議結果

1 開催日時

令和5年9月19日（火）14時00分～16時00分

2 開催場所

WEB会議

3 出席者

(1) 委員（敬省略、順不同）

田村 昌三（座長）、朝倉 浩一（書面）、新井 充、岩田 雄策、芝田 育也、高橋 文夫、鶴田 俊、三宅 淳巳

(2) オブザーバー

内野 絵里香（経済産業省）、石川 裕介（厚生労働省）

(3) 事務局

加藤 晃一、合庭 貴信、佐藤 匠、長嶺 将彦

4 配布資料

(資料Ⅱ-1-1) 「火災危険性を有するおそれのある物質」の調査結果及び対応について

(資料Ⅱ-1-2) 第一次候補物質の抽出結果※

(資料Ⅱ-1-3) 第二次候補物質の調査結果※

(資料Ⅱ-1-4) 流通量モニタリング物質の調査結果※

(資料Ⅱ-1-5) 社会的影響について※

(資料Ⅱ-2-1) 「消防活動阻害性を有するおそれのある物質」の調査結果及び対応について

(資料Ⅱ-2-2) 「消防活動阻害性を有するおそれのある物質」の対象物質一覧※

(資料Ⅱ-3) 酸化性固体の性状確認試験に係る臭素酸カリウムの代替物質の調査について※

[参考資料Ⅱ-1] 「火災危険性を有するおそれのある物質」の調査方法

[参考資料Ⅱ-2] 「消防活動阻害性を有するおそれのある物質」の調査方法

[参考資料Ⅱ-3] 毒物劇物の判定基準

※非公開情報を含むため一部委員限り

5 開会

6 議事内容

(1) 「火災危険性を有するおそれのある物質」の対応（案）について

資料Ⅱ－１－１から資料Ⅱ－１－５により事務局から説明が行われた。

意見等はなし。

【座 長】 今年度の「火災危険性を有するおそれのある物質」の対応については事務局案の通り進めていただきたい。

(2) 「消防活動阻害性を有するおそれのある物質」の対応（案）について

資料Ⅱ－２－１、資料Ⅱ－２－２により事務局から説明が行われた。

【委 員】 該当となる物質の流通する際の形状等は把握しているのか。

【事務局】 まだ市場に流通している物質ではないので、事務局では把握はしていない。製造している会社から試験に供する試料の提供を受ける予定であり、その際に流通する形状等に係るヒアリングを実施する予定である。

【委 員】 承知した。

【オブザーバー】 毒物劇物調査会にあたって事業者を確認したところ、市場に流通する形状は8%の水和剤を想定しているとのことであった。

【座 長】 委員の意見を踏まえながら、「消防活動阻害性を有するおそれのある物質」の対応について引き続き事務局案の通り進めていただきたい。

(3) 酸化性固体の性状確認試験に係る臭素酸カリウムの代替物質の調査（案）について

資料Ⅱ－３により事務局から説明が行われた。

【座 長】 過酸化カルシウム 75 重量%品の不純物の内訳は把握しているか。

【事務局】 製造会社のSDSでは水酸化カルシウム 10～20 重量%、炭酸カルシウムが10～20 重量%と記載されている。

【委 員】 事務局案について二点確認したい。

一点目は、試料の粒度についてである。燃焼試験では、その燃焼時間は試料の比表面積に左右されるため、細かい粒子があればあるほど燃焼速度が速くなることが考えられる。このため、製品の粒度の下限値はある程度決めておいた方がよい。また、粒度分布のデータが取れるのであればデータをとった方がよい。粒度の分布図等があれば、今後の検証試験にも役に立つ。

二点目は、令和元年度と令和2年度の検証結果で、同じ試験条件で燃焼時間に差異があったことについては、試料の調整等に由来するばらつきと考えてよいか。

【事務局】 試料の粒度の下限値についてはある程度決めて検証を進めたい。また、粒度分布についても可能であれば測定したい。

燃焼時間の差異については、試料の調整等によるものと考えている。

【委 員】 第1回で話した OECD-IGUS の EOS のワーキンググループでの検証結果の報告書がまもなく出来上がる。新しい情報があれば消防庁へ情報提供したい。

【座 長】 国連においても検討されており、その結果は今後の検証においても貴重な情

報となるので新しい情報があれば提供していただきたい。

- 【委員】 試料の不純物が燃焼時間に影響する可能性もあるため、試料の分解温度を測れば記録した方が良い。また、木粉と混ぜた際に燃焼時間だけでなく、燃え方等も記録し、比較したほうが良い。
- 【事務局】 分解温度の測定については、可能な範囲でやっていきたい。また、燃焼の様子は動画又は写真等で記録する予定。
- 【座長】 国際海上危険物規程（以下「IMDG コード」という。）において、試験に供する試料の不純物について、検証しているようであれば情報提供いただきたい。
- 【事務局】 IMDG コードに規定する O.3 試験で使用する過酸化カルシウムでは、規格を満たせば前処理無しで使用できるとされている。
- 【座長】 今回消防庁で使う試料と同等のものか。
- 【事務局】 事務局では把握していない。
- 【座長】 承知した。消防庁でも状況が分かれば情報提供していただきたい。
- 【委員】 化学物質はロットにより成分に違いが見られることが多い。今回の試料でも不純物質の量に幅があるようだが、事務局としては、今回の燃焼試験の結果に影響を与えないと考えているのか。
- 【事務局】 ロットごとの比較をしていないので現時点では把握できていない。
- 【委員】 おそらく、不純物質から考えると燃焼試験なので結果に大きな影響は出ない可能性が高いが、試験を行う際に違うロットを使用する際には成分の比較表等を作成してはよいかと考える。
- 【座長】 不純物質を考えると燃焼に大きな影響を及ぼすことはないが、可能であれば燃焼に対する影響を記録し確認出来た方がよい。
- 【事務局】 承知した。試験以外でも文献等で確認出来る方法なども検討していきたい。
- 【座長】 事務局としては試験方法が複雑となり大変だと思うが、不純物質が試験に与える影響等を考慮しながら試験、記録をしてもらえればと考えている。不純物質が与える影響がある程度把握できれば正確な検証が出来るのではないか。
- 【事務局】 承知した。本検討会で出た意見を踏まえ、可能な限り検討し、検証計画に反映していきたいと考えている。

7 閉会

以上